

親 鸞 思 想 の 解 明

会 場： 東京国際フォーラム G棟（地図は裏面を参照ください。）

※ ご参加の予約は不要です。

なお、満席の場合には先着順となりますのでご了承ください。（定員：80名）

日 時： 第117回 12月 4日（火）G棟610 18:30~20:30（受付 18:00）

第118回 1月 9日（水）G棟510 18:30~20:30（受付 18:00）

第119回 2月 1日（金）G棟502 18:30~20:30（受付 18:00）

講 題： 浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—

講 師： 親鸞仏教センター所長 本多弘之

テキスト： 『真宗聖典』〈ご希望の方は、東本願寺出版（下記）までご注文ください。〉

TEL 075-371-9189 FAX 075-371-9211

●インターネットでの書籍のお求めは、

URL <http://books.higashihonganji.or.jp>



聴講料： 無 料

※ 講義（問題提起）後、ご参加の方々との質疑応答の時間を設けております。
お気軽にご参加ください。

講座開設の趣旨

現代文明の溢れる人間社会を^{あふ}生きているものにとって、入手できる情報の範囲はずいぶん広がってはいる。しかし、生まれてから死ぬまで、それぞれの人が与えられる自己の状況に、自分自身が納得し、^{うなず}ころから領けるかというなら、決してそうではない。一般的な条件と、ことさらに自分に起こってくる事件や事実との間には、どう考えても不条理だとしか考えられない落差が出てくるからである。その落差を、^{しゆくごういんねん}仏教的表現では「宿業因縁」と教えるのであるが、この宿業因縁を自己に必然の事実であると引き受けることは容易ではない。

その落差の条件を^{ひゆ}比喩的に表現するなら、「届かない^{かなた}彼方」とか「見えざる背景」とか、あるいは「自己に^{ごうほう}負荷されている祖先の業報」というのであろう。これは、^{ふんべつ}理知分別の計数には決して翻訳できない人間の条件なのである。しかもそれが、現実のわれらの生存を厳粛に規定している。この宿業因縁の圧迫から解放しようとする要求が、「浄土を求めさせる要求」の深みにあるのではなからうか。

本多弘之

主 催： 親鸞仏教センター（真宗大谷派）

〒113-0034 東京都文京区湯島 2丁目 19-11

TEL 03-3814-4900 FAX 03-3814-4901

E-mail shinran-bc@higashihonganji.or.jp

URL <http://shinran-bc.higashihonganji.or.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/shinran.bc>

親鸞仏教センター

検索

click

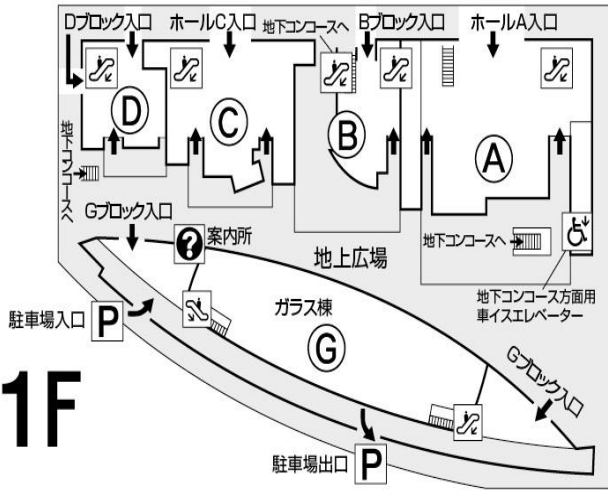
南無阿弥陀仏で人間の終わりに出会う

あたかも金銀財宝があるが如き場所が浄土ですよと。浄土を荘厳するというのは、そういう形で、この世に似せて語るわけです。しかし、この世のようにあるわけではない。でも、その限界を凡夫はよくわからない。この世のようにあるのだと思って欲望につかれて往けるかと思う。金銀財宝が山のようにありますよと。ああ、そうか、そういう場所かと、単純にそう思って浄土に往きたいと思っても、浄土に往きたい心が欲ですから、単なる欲では往けないよと言われてしまうわけです。本当の純粋な清浄な意欲に触れて初めて往くことができる。凡夫のままでは浄土には触れられない。だから安田理深先生が言うように、人間の最後だと。人間の最後に触れて、人間に死んで、初めて生まれることができるのが浄土だと。でも、人間に死ぬということは、凡夫に死ぬということなのだ。凡夫の終わりが信の一念だと。だから本願力に触れた途端に人間の意味が変えられる。そういうことに出会うのが「南無阿弥陀仏」なのだ。南無阿弥陀仏で人間の終わりに出会う。こういうふうにあいさすいただくわけです。だからどれだけ煩悩があろうと、その煩悩をさまたげとしない。その煩悩に死ぬのだと。そういうことが起こるのが南無阿弥陀仏なのだ。

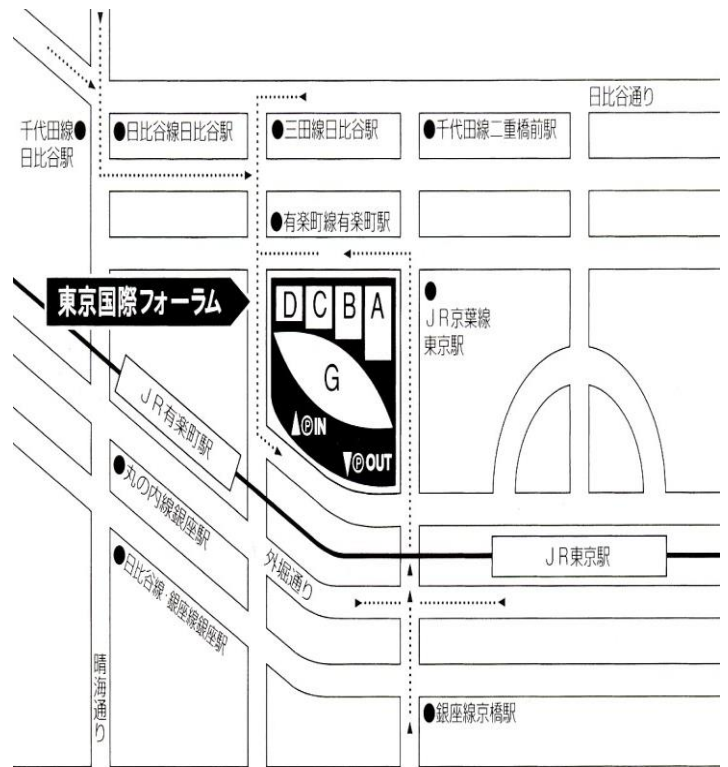
他方仏土の菩薩、他方国土の衆生であっても、我が光があたったならば、どのような衆生であろうとも我が力を与えようと。こういう誓いが四十八願の中に繰り返して出てくるわけです。そういう形で、浄土に生まれただけの功德と思っていたら、何のことはない。穢土に居ても浄土の功德が来る。浄土の功德に触れる、阿弥陀の大悲の光に触れるのだと。我々がどれだけ暗い心でいようと、心が晴れるのだと。自分は力は足りない、体力も足りない、だからだめだというふうに考えて落ち込んでいる人間に、「そうではないのだよ」と。どれだけお前に力が足りなくてもわしが助けてやるのだと。こういう大悲が来る。「南無阿弥陀仏」といただくところに、大きなはたらきが感じられて、このままで人生を尽くしていけるのだと、無駄なものはないのだと、そういう眼が開けるのだと言うのです。

(『親鸞仏教センター通信』第66号〈第109回「親鸞思想の解明」〉より)

《場内案内図》 ※G棟会議室へは、地下1階のエレベーターをご利用ください。



《会場までのアクセス》



A: ホールA B: ホールB7、ホールB5 C: ホールC D: ホールD7、ホールD5、ホールD1
G: ロビー・ギャラリー、会議室、展示ホール

- JR線 有楽町駅より徒歩1分
東京駅より徒歩5分 (京葉線東京駅と地下1階コンコースにて連絡)
- 地下鉄 有楽町線 有楽町駅と地下1階コンコースにて連絡

→ 車輛導入路